

燃えるごみ組成分析調査結果について

令和6年4月23日
福島県一般廃棄物課

1 調査目的

県は令和5年度に、ごみの減量化・リサイクルの取組をより効果的に進めるために、廃棄物焼却施設に搬入される燃えるごみの組成分析調査を行いました。

2 調査概要

(1) 調査時期

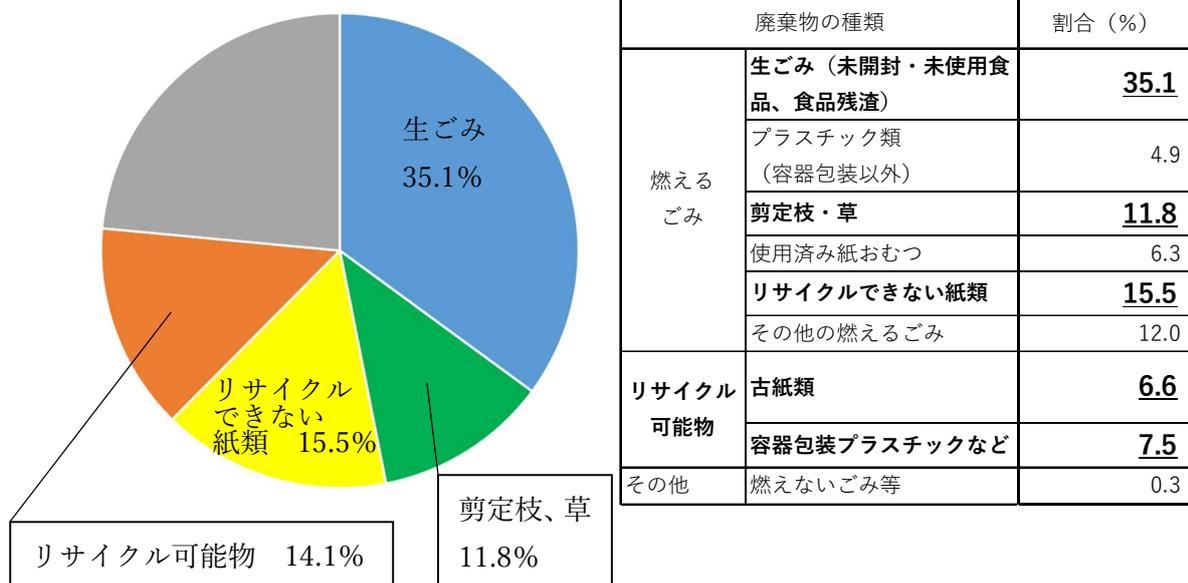
夏季及び冬季

(2) 調査方法

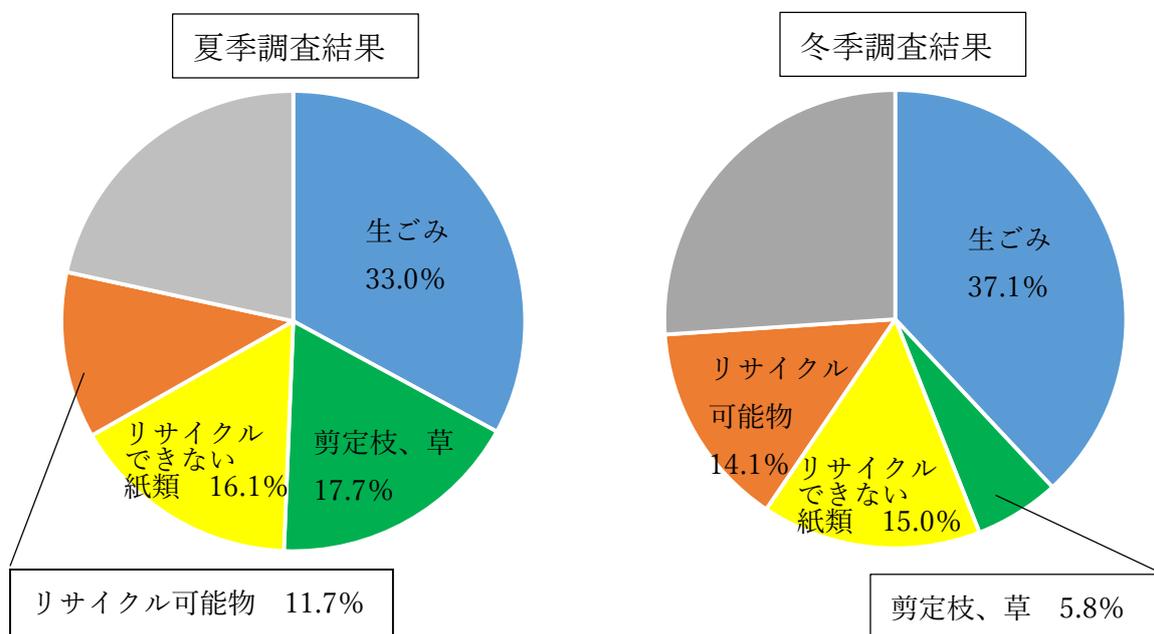
県内の3市町において、家庭系の燃えるごみ（一般廃棄物）を収集した廃棄物運搬車両6台から、1台当たり約150kgのごみを抽出し、廃棄物の種類毎に分けて重さを量り、その割合を算出しました。

3 調査結果

燃えるごみの中には、食品残渣等の「生ごみ」が約35%と最も多く含まれていました。夏季調査で次に多かった「剪定枝・草」は、冬季調査において排出量が減少したため、年間では「リサイクルできない紙類」が2番目に多くなりました。また、古紙類や容器包装プラスチックなどの「リサイクル可能物」は約14%含まれていました。



なお、夏季及び冬季調査結果については、下記のとおりです。



4 調査結果からの示唆

(1) 燃えるごみを減らすためのポイント

- 生ごみの約8割は水分といわれているため、乾燥させてからごみとして出すことで、燃えるごみの重量を約2割減らすことができます。
- また、コンポストの活用等により、そもそも生ごみを発生させない取り組みも有効です。
- リサイクルの可能な古紙類や容器包装プラスチックの分別を徹底し、資源ごみとして出すことで、燃えるごみの重量を1割程度減らすことができ、また、リサイクル率を高めることができます。

(2) 実践できる取組例

- 生ごみは、よく水切りをしてから一晩乾燥させてごみとして出す。
草も生ごみ同様に水分が多く含まれるため、数日間乾燥させてから排出する。
- ホームセンター等で販売しているコンポストを活用し、家庭から出る生ごみを堆肥化し、できた堆肥をプランター等で使用する。
⇒ 県は、令和4年度に生ごみをテーマとしたごみ減量アイデアコンテストを開催しました。優秀なアイデアを下記の県一般廃棄物課ホームページに掲載しておりますので生ごみ削減の参考としてください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16045a/gomigenryou-idea.html>

- 食わずに捨てる食品が出ないよう、食品を買う前に**冷蔵庫の中を見て**余分なものを買わないようにする。

⇒ 県では食品ロスの削減のため、家庭や外食時にできる取組を紹介しています。詳しくは下記の県一般廃棄物課のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16045a/foodloss.html>

- ペットボトルや段ボール・雑がみなどは、分別を徹底し、燃えるごみではなく**資源ごみとして出すか**、小売店等に設置してある**リサイクルボックス**を活用する。

⇒ お住まいの地区のごみの分け方を調べる時は、福島県環境アプリの「ごみ分別辞典」を使うと便利です。右の二次元コードからダウンロードできますので、ご利用ください。

ダウンロードはこちらから↓



5 今後の対応

今回の調査結果を踏まえ、更なる生ごみ対策とリサイクルの推進に努めてまいります。